

留学生活全般について:

見るものすべてが新鮮な充実したプログラムとなりました。到着したスワンナプーム国際空港は煌びやかで、国際色が強く、今後さらにタイへの外国人観光客の訪問が見込まれ、急速な成長段階にあるといった印象を受けました。空港からホテルまでの送迎バスに乗り込み、非常に驚いたのが、渋滞の光景です。17 km程の道のりを 1.5 時間ほどかかり、個人的な感覚としては、災害が発生し交通網が麻痺しているような感覚に陥りました。自動車交通に関しては、また、信号等もうまく機能しておらず、これから改善すべき点が山積みであると感じました。

タイの人々に関してですが、温和であり寛容で、おもてなし誠心を強く感じました。異性も含め、友達同士のつながりが強く、和気あいあいとした国民性でした。

漠然とした話になりますが、タイの人々は許容範囲が広いと感じました。交通渋滞一つとってもそうですが、車線こそ引いてありますが、関係なく走っており、通行による死亡事故は日本と比較した場合、5 倍程というデータでした。それを知った際は非常に高い数値であると感じ、交通の現状を実際に見てみると、この状況で事故を起こさないことのほうが、よっぽど不思議に感じました。通常、このような状況では法律等で規制しなければ、生産性を考えると、かなりコストパフォーマンスの悪い環境で、日本であれば考えられない状況ですが、それが日常として日々繰り返されていることに新鮮さを覚えました。また、飲食店、コンビニで働いている人を見ても日本のように疲れた顔をしてストレスを抱えている人がほとんど見られませんでした。幸福度の高い人々であることが分かりました。

① 留学目的の達成度

インフラ:

先にも述べましたように、道路における渋滞はかなり深刻な問題であると感じました。続いて、改善の余地があるのが水道です。上水道においては、全く飲むことができず、現地のタイ人ですら蛇口から直接飲むことはなく、ペットボトルやウォーターサーバーを活用していました。加えてマーケットなどの飲食店でも氷を作るにしても、ミネラルウォーターを使用しているとのことでした。蛇口をひねれば飲み水が出てくることは世界的に先進国とその他一部のみであるため、当たり前が世界では異なることを痛感する良い機会となりました。下水道においても、まだまだこれからだと感じました。リゾートホテルにおいてもトイレトペーパーを流すことができないことや、高級ショッピングモールの目の前の道路ですら、雨が降れば冠水状態で、ギャップを感じました。また高級ショッピングモールから地元のショッピングモールまで何段階もあり非に興味深かったです。

鉄道:

空港へのアクセス線や地下鉄を含め、日本企業の投資、設計に基づく路線が 3 つあり、快適な車内と安定したダイヤに驚きました。しかしながら本数が少ないのが現状であり、その路線から支線を伸ばすことで更なる利便性や観光客の増加を見込めると感じました。

② 留学、学習、国際理解への意欲に関する留学前後の意識の変化

プログラムにホームステイが組まれていたため、同年代のタイ人と密にコミュニケーションをとることができ、タイの人々の人間性を理解することができました。特に泰日工業大学の学生は日本

もしくは日系企業で働きたい意思を持つ学生が多く、日本に関心のある学生が大変多く、日本を訪れたことのある学生も多いです。また日本語の勉強に関してもかなり熱心に行っており、日常会話等は、ほとんど差し支え無くコミュニケーションをとることができ、驚きました。既に日本で働くことが決定している学生や卒業後、訪日し日本語学校等で自らの日本語を向上させようとする学生が多くみられました。

タイの文化、歴史、社会から考察：

ワットプラケオを訪れた際、前国王の9世が安置されているため、平日でも数多くの方が訪れており、それが毎日の光景であるようで、前国王に対する尊敬と信仰心に非常に驚きました。また滞在したバンコクではラマ9世の肖像画を奉っている飲食店、民家が多く、タイで広い世代から現在もなお愛されていることが分かりました。

③ 今後の長期留学の意欲等を含めて

長期留学については考えていませんが、異文化に触れることで、これまでの価値観や固定観念が崩れ、衝撃を受けることを望んでいます。加えて感情や感覚、広域的な目線、包容力などを少しでも獲得できるよう今後も短期のプログラム等があれば、是非参加させていただきたいと考えています。

留学報告レポート: 泰日工業大学サマープログラムに参加をして

電気電子工学科

1年 渡邊 瑞希

私は今回の留学で文化交流と英語能力の向上を目的にしていました。

まずは文化交流についてですが、タイは国教が仏教であり、仏教の規律が国民に広く根付いていると感じました。その例として豚肉を食べないことや、お酒が17時以降にならないと買えないこと、僧侶は女性に触れてはいけないこと、家や学校に仏教の祭壇のようなものがあることが挙げられます。特に街中にある仏教の祭壇は金色で、よく手入れされており、仏教の国ということを強く感じさせました。僧侶はバンコク市内の近代的なところにはいないものの、有名な観光地などお寺が多くあるところでは多かったです。タイの僧侶は出家することと還俗することが日本に比べてはるかに自由で、学生が長期休みの間に出家したり、家族が亡くなると喪に服す1年間だけ出家するなど、日常的に出家が行われているそうです。そのため、修行僧も若い人が多くみられました。タイでは僧侶への配慮として、仏教では僧侶が女性に触れてしまうと今まで積んできた徳や修行がすべて無駄になるため、絶対に触れないようにと教えられました。

また、タイ人の特徴として目上の人に対する敬意が強いことがあげられます。特に両親への尊敬とタイの国王への畏敬の念が強く、日本のように親のことを悪く言う学生はおらず、街のいたるところに国王の写真がありました。実はタイでは去年の10月に国王が死去したばかりで、タイ国民は1年間喪に服しているらしいのですが、見学にいった王宮周辺ではもうすぐ1年たつにも関わらず、黒い喪服をきた人が多くみられ、国王の人気の高さがうかがえました。先代国王のラーマ9世は立派な人物だったようで、タイ国民に非常に敬愛されており、タイ国内で国王や王室を侮辱すると外国人であっても不敬罪が課されることがあるそうです。

プログラムの中で見学したシリラー病院博物館は先代国王ラーマ9世が亡くなった病院とともに

ある博物館で、別名死体博物館と呼ばれることから、人の標本がある怖いところかと思っていたものの、実際は病気になった臓器などが治療法とともに展示しており、医学部の学生が学習のために使用するなど前向きな目的のためにつくられた博物館だと感じました。また、展示してある人間の体も歴代の館長のもので、仏教では死んだ後の体は土に返さなければ生まれ変わることができないため、館長たちの医学への貢献がみてとれました。

タイの言葉面で感じたことですが、東南アジア唯一の独立を守った国として、同じく独立を守った日本とは共通点が多く感じられました。特に強く感じたのは英語の普及率の低さで、ほとんどがタイ語であるタイでは英語は一部の大型デパートと空港でしか通じず、目標としていた英語の能力向上はあまり出来なかったです。英語が通じないのは日本も同じであり、両国の課題であると感じました。

次に工業面から見たタイについてですが、タイには日本の自動車メーカーの下請け工場が多くあり、主に自動車工業が盛んでした。今回の留学では企業訪問で、車のヘッドライトの加工を行う日系企業の工場を見学しました。工場はライン生産方式で、安全管理が徹底しており、社員は日本への研修などが義務化されているそうです。

また、自動車工業の発展によりタイ国内は非常に自動車やバイクが多く、その上交通マナーがあまり良くないと感じました。バスなどの公共交通機関も古い車が多く、その分排気ガスも多いという印象でした。交通マナーが良くない原因として道路の少なさがあるそうです。そのため、渋滞が多発するところや、バイクなどの二輪車が歩道を逆走するところが多く見られました。歩道の状況も凹凸が多く、あまりよくなくて日本で多くみられる自転車も歩道を走れる道路状況ではないこともあり、ほとんどいませんでした。また、交通事故の多さも世界2位で、これは自動車工業を主とする新興国としての課題であると感じました。しかし、地下鉄などは非常に安く、日本の地下鉄の1/2ぐらいの値段で乗れてとても便利でした。

私は留学にお金がたくさんかかると思っていたのですが、今回のプログラムは大学の支援はもちろん、タイの物価が安いということもあり自分で貯金したものだけで十分足りるぐらいの費用で参加することができました。また、今回は勉強になり楽しいプログラムが多い一方で自由な時間が多く、その時間は現地の友達と会うことができたこともよかったと思います。プログラム自体も工学・医学・生物学など幅広く組まれていて、ほかの日本の大学から来た友達とも話げできたことも勉強になりました。今後もこのようなプログラムに積極的に参加して自分の能力を伸ばしていきたいです。